

道東太平洋沖の流速場（2019年04月 海況速報No.187 付記）

2019/05/09

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。（水温観測結果は「北辰丸」および、函館水産試験場所属「金星丸」の結果を使用しています。）

親潮：親潮の本流（O1：流速60～100cm/s程度（100m深））は根室の沖合を西南西向きに流れ、釧路沖で南向きに転じ、40°N付近まで到達しています（図1）。親潮の本流周辺には親潮水（100m深5℃以下）が広く分布しており、そこでの水温は平年よりも1～2℃低くなっています（図2）。

暖水（えりも以東）：親潮本流の沖側（41.5°N、146°E付近）には、水温が平年より3～4℃高い暖水（100m深7℃以上）が分布しており（図2）、その周辺では強い北向きの流れ（W1：流速50～70cm/s程度（100m深））が見られます（図1）。これは衛星水温（例、気象庁HP：<http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyo/daily/himawarisst.html?areano=1>）などで確認されている、沖合北上暖水（41.5°N、147°E付近に中心）の西側縁辺部だと考えられます。

津軽暖流：海峡から流出した津軽暖流水（100m深8℃以上）は、青森沿岸に沿って南下しており、津軽暖流は沿岸モードです。

今後の見通し：4月時点で親潮は順調に流れています、その沖合には暖水塊が分布しています。そのため道東では暖水塊の動き次第で、2015～2016年のように、沿岸まで暖水に覆われる可能性があります。今後の情報にご注意ください。

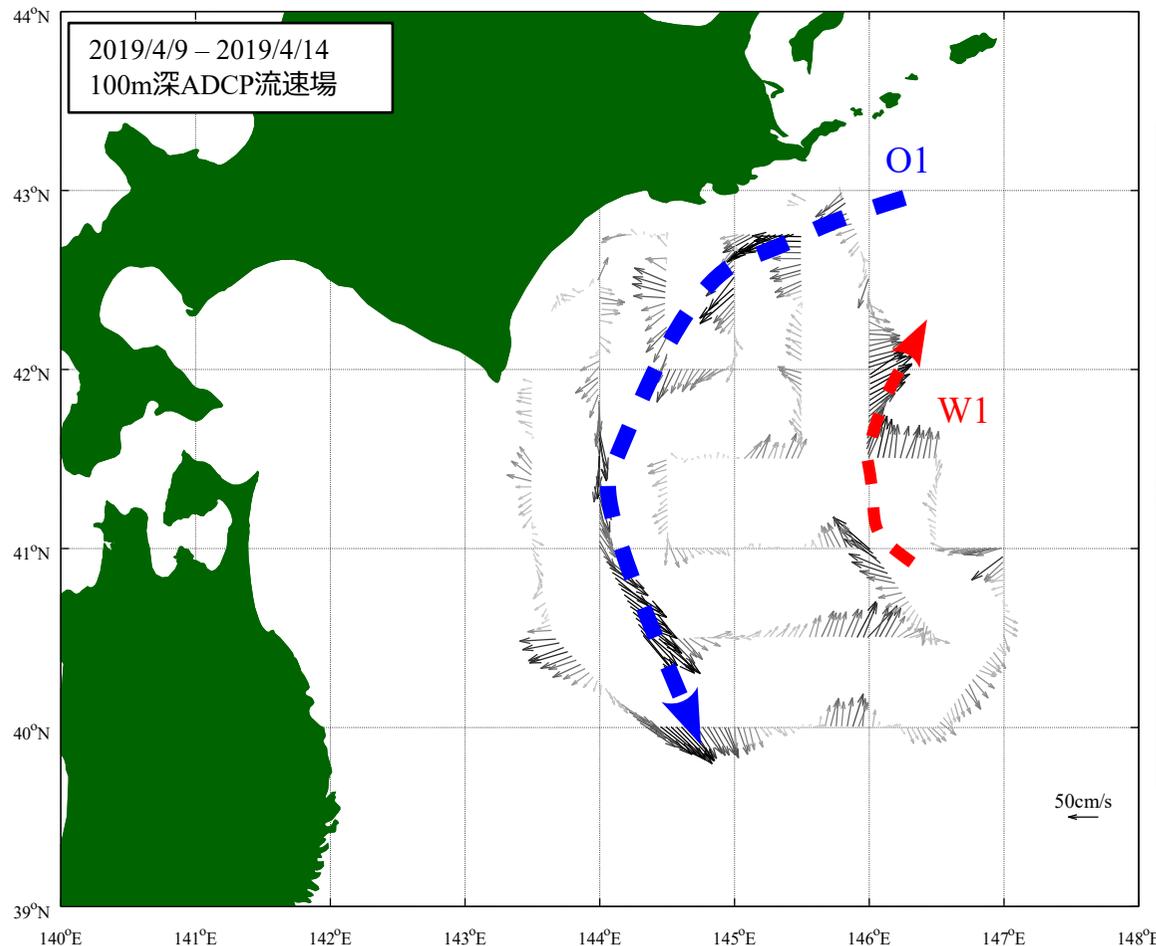


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さや色の濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮（青）、暖水（赤）の流れの模式図

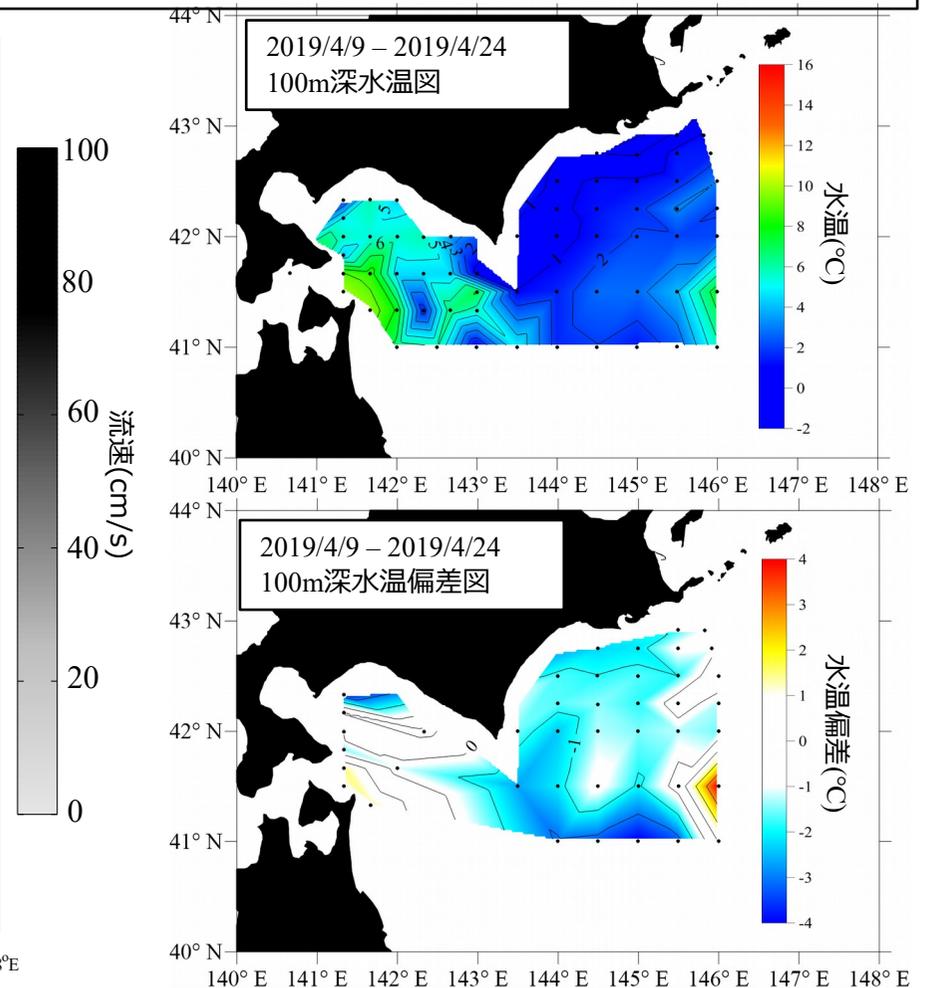


図2（上）100m深水温図
（下）100m深水温偏差図（1989～2018年平均からの差）